

2012年 ～市川市芸術文化集会～ 第18回 シンポジウム

開催日

平成24年

2月11日(土・祝) 13:00 開演

会場

市川市文化会館 大会議室

テーマ

大震災一年後の今

基調
講演

岩手県大槌町教育委員会
生涯学習課長兼図書館長

佐々木 健氏



シンポジウム

“生きる”をささえる芸術文化のちから

● パネラー

土屋 金司(旭市在住版画家) 藤田 沙知代(チーム・ピースレンジャー)
菊地 俊輔(市川市文化振興財団・岩手県出身)

● コーディネーター

酒井 玄枝(市川市合唱連盟理事長)

● 合唱演奏

市川市立第二中学校合唱部

入場
無料

主催 市川市芸術文化団体協議会

共催 市川市・(公財)市川市文化振興財団

後援 市川市教育委員会

問合せ 実行委員 篠田要衛 Tel・Fax047-339-3554

次 第

2012年2月11日（土）13:00～

- ▶ 13:00～13:15
会長あいさつ
来賓紹介・代表あいさつ

- ▶ 13:15～14:05
基調講演 佐々木 健 氏
「大震災一年後の今」

- ▶ 14:15～15:00
シンポジウム
「“生きる”をささえる芸術文化のちから」

- ▶ 15:00～15:10
合唱演奏 市川市立第二中学校合唱部
指揮：正田恵美子



ご 挨拶

市川市長、市川市芸術文化団体協議会名誉会長 大久保 博

第18回を迎えます「市川市芸術文化集会シンポジウム」が、市川市文化会館で盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

市川市芸術文化団体協議会におかれましては、白倉会長をはじめ関係者の皆様には、昭和49年の設立以来、本市の芸術文化の発展にご尽力いただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

本日の催しは、市川市芸術祭・文化祭として、貴会と市川市が共催で行うものです。基調講演では、「大震災一年後の今」～"生きる"を支える芸術文化の力～をテーマに、大槌町教育委員会の佐々木 健氏をお招きし、文化・芸術の行政担当者からみた、東日本大震災の教訓とその後についてご講演いただきます。貴重なお話しを通じ、大災害や津波という非常事態の発生を受けるなか、文化や芸術が果たす意義や役割が浮かび上がってくるものと思います。

また、基調講演を受けてのシンポジウムでは、芸術文化の振興に造詣の深いパネラー並びにコーディネーターの皆様には、本市の文化行政の発展につながるヒントとなるご意見を多数いただけるものと期待をしております。

結びに、市川市芸術文化団体協議会の益々のご発展、並びにご来場の皆様のご健勝を祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

ご 挨拶

市川市芸術文化団体協議会会長 白倉 道代

この度の文化集会の基調講演とパネラーをお願いする為に、9月には旭市、10月には大槌町を訪問させていただきました。そこで目にしたものは、家の土台だけが残っていて、何もないという光景です。ただ瓦礫の山が続くばかりでした。堤防が寸断されたのか、大きなコンクリートの塊がごろごろしているのを見て、すさまじい自然の猛威を思い知らされました。圧倒的な不可抗力によって、家や車、そして大切な家族や友人、団欒や希望までもあの濁流が飲み込んだのかと思うと、私は茫然自失、言葉が出ませんでした。

こんな時、芸術や文化が何の役に立つのだろうか私の心の中には一抹の迷いがありました。しかし、基調講演をお願いする佐々木様とお話の中で、「こんな瓦礫の中を毎日学校へ通っている子供たちにこそ、読書が必要なのです。芸術や文化が絶対に必要なんです。」というお言葉を聞いて、私は背中をピシッと叩かれた思いでした。

確かに芸術文化を通して、人の心に夢や希望が芽生えたとしたら、それは大きな生きる力となるでしょう。私たちも被災地の皆様と共に復興という長い道程を歩いていきたいと思えます。

大震災一年後の今

—震災からの復興に自然と歴史と文化を—

佐々木 健

■淡水型イトヨはどうなったか

津波は、淡水型イトヨの生息する源水川を駆け上った。すぐそばにある大槌中学校の建物二階部分まで浸水。イトヨがどうなったか、気を揉む時間が長く続いた。

*「淡水型イトヨ」：大槌町の湧水池に生息するトゲウオ科の希少魚、町指定天然記念物

■震災からの復興で、新たな挑戦を

何もないから出来ることがあると信じたい。大槌町は県内でも二番目に古い孵化事業の歴史を持つ。

イトヨ生息地は、孵化場が移転する前の状態に戻す。孵化場も、イトヨ生息地も、観光客を招き入れる施設にすることは可能である。

■「ひょっこりひょうたん島」精神

大槌湾には「蓬莱島」が浮かぶ。言わずと知れた「ひょっこりひょうたん島」のモデルの島である。井上ひさしの描いたそこには、いろいろな人たちが上陸し様々な問題が巻き起こる。けれども、誰一人として排除することなく、大統領も海賊も博士も、子供たちも一緒になって、その問題を解決していくのである。そしてその精神は「吉里吉里人」では、日本国に頼らず自分たちでやっていくという、独立国へと発展する。

■自然と自然界の生き物たち

どこの自治体の震災復興にも、自然界の生き物たちを気にかけている「章」はないであろう。「文化」についても極めて希薄であることは容易に想像される。

■おわりに

震災で多くの方々の支援を頂戴することができました。

※市川市文化振興財団から「吉里吉里支援募金」並びに、「よみっこ運動」から書籍の支援をいただきました。感謝申し上げます。

◆ 佐々木 健 プロフィール

1957年、岩手県大槌町生まれ。東洋大学経営学部卒業。82年大槌町役場職員。教育委員会事務局、図書館、産業振興課などを経て、震災後の2011年4月から生涯学習課長。最大で44ヶ所あった避難所の運営を担当してきた。その避難所も8月には閉鎖。マスコミ対応や支援の受入れ、幅広い人脈を生かし大槌町への支援の輪を大きくしている。全国各地からの要請に応え、シンポジウムや講演活動にも奔走。被災の現場からの生の声を発信し続けている。生き物文化誌学会会員、財団法人地方自治体公民連携研究財団客員研究員でもある。

“生きる”をささえる芸術文化のちから

コーディネーター

酒井 玄 枝

市川市合唱連盟理事長

パネラー

土 屋 金 司

旭市在住 版画家

藤 田 沙知代

チーム・ピースチャレンジャー

菊 地 俊 輔

市川市文化振興財団・岩手県出身

◆ パネラーからのメッセージ

土 屋 金 司

復興応援酒へのご支持に感謝申し上げます。

地元の仲間と共に世に出させた事で、東日本大震災に立ち向かう勇気をもらいました。復興の実現はまだこれからと考えますが、応援の気持ちを形に出来て、旭市の被災者からも感謝の声を寄せられています。これからも心と心を結ぶ絆を確認しつつ、継続して行って復興の力としたいものです。芸術文化はその為の大きな力となる事でしょう。

藤 田 沙知代

大震災を受けた人々の生活の復旧は徐々に進んでいると思いますが、心の復旧はどんなものかと考えています。同じ被災者同士との励まし合いや頑張って立ち上がった人々の情報を受けることで、奮起できる人と落ち込んでいる人、様々の中で今後必要と思えるのは、内面的なケアだと思っています。そのケアの方法として、“世界で起きている厳しい子供たちの生活”などを上映会・写真展を通してお知らせしていくことであると考えます。

菊地 俊輔

- 3・11 その時何を思ったか。感じたか。

東日本大震災に見舞われた直後の気持ち、こちらでの対応をしながらも故郷を想う気持ち、ただただ安否を祈るばかりで、何も出来なかった虚しさを率直にお話したいと思います。

- 被災地を訪れて

6月、8月、10月と大槌町を訪れて、感じたこと。その変わり様をお伝えできたらと思います。

- 私たちに出来ること。

出来ることは日々、変わっていますが、細くとも長い支援が必要です。

その中でも、文化を通じて出来ること。文化団体が出来ること。

本当の復興に向けて、文化の必要性を訴えたいと思います。

◆ パネラー・コーディネーター プロフィール

土屋 金司

昭和54年、東京銀座で個展を開く。以後、県内を中心に東京・京都・奈良等で個展。風景、民俗、童謡を題材に製作。旭市広報を27年、千葉TVを20年、県発行の「ゆたかな消費者」を21年間担当。

平成3年、県立東総文化会館大ホール緞帳を製作。平成22年、香取神宮で古事記・日本書紀展を奉納。

千葉県警察学校文化クラブ版画講師、旭市生まれ在住57才。

藤田 沙知代

1956年熊本県出身。

子育てをきっかけに環境問題に取り組み、自然、土、水を大事にした生活のあり方を学びあう生活研究会で活動。2007年、世界の子供たちが平等に健康で幸せに生きていくための活動を始めるために、NGOチーム ピース チャレンジャーを友人3人で立ち上げる。インドを中心に活動しながら、貧困村や子供たちの幸せのためにフェアトレード活動に力を入れ、現地女性国会議員とも交流を持っている。

菊 地 俊 輔

岩手県出身。高校まで水沢市（現奥州市）、久慈市、盛岡市で育つ。奈良大学にて考古学を専攻。平成16年度より市川市文化振興財団職員。趣味はマラソンとピアノ。

酒 井 玄 枝（さかい すみえ）市川市合唱連盟理事長

愛知県岡崎市生まれ。

（市）八幡小学校PTAの時、合唱を始める（コール・マーマ在籍）。1985年文化会館柿落としの「第九合唱」に参加、翌年より市川市合唱連盟常任理事就任現在に至る。

1992年市民第九としての「市川・第九」（市制60周年記念）立ち上げに尽力、以来実行委員として運営に携わる。

2004年第5回「夜の虹賞」受賞（故 宗 左近先生による）。

市川市花道協会常任理事・市川市総合計画審議会委員

合唱演奏

市川市立第二中学校合唱部

◆ プロフィール

2009年第二中学校合唱部発足し、やっとなり部員が増えつつ現在に至ります。

まだまだ基礎練習や発声が十分でなく、日々練習に取り組んでいます。

合唱部の目標は「部員全員が心一つにして、音楽を楽しみながら伸び伸びと表現できるようにしよう」です。勝負に拘ることなく、生徒一人ひとりが音楽と向き合い「楽しい」と感じられるまでの指導に力を入れています。至らない所もまだまだいっぱいありますが、心をこめて演奏したいと思います。今回の曲は生徒の学習のために、「祈る心」をテーマに勉強しました。

◆ 演奏プログラム

「蛩 蛩 蛩」 作詞：宗 左近 作曲：大田 桜子

「その時に祈る」 作詞：山本 櫻子 作曲：大田 桜子

指揮：正田 恵美子



ふるさと

高野辰之・作詞
岡野貞一・作曲

うさぎ追いし かの山
こぶな釣りし かの川
夢は今もめぐりて
忘れがたき ふるさと

いかにいます 父母
つつがなしや 友がき
雨に風に つけても
思いいづる ふるさと

志を果たして
いつの日にか 帰らん
山は青き ふるさと
水は清き ふるさと

市川市芸術文化団体協議会

市川市花道協会
市川交響楽団協会
市川三曲協会
市川民話の会
市川市合唱連盟
市川市洋舞踊協会
市川オペラ振興会
市川市手工芸連盟
市川市写真連盟
あずさ企画
日本アートギャラリー
茶道狭霧会